



(第Ⅱ部)

若手研究者の育成・支援を推進する 研究開発評価 とは何か

－現場の目線から実施事例を理解する糸口－

文部科学省 科学技術・学術政策局
研究開発評価推進検討会

栗本 英和 (名古屋大学)

「文部科学省における研究及び開発に関する評価指針」(抜粋)

文部科学大臣決定（平成14年06月20日，同27年04月01日最終改定）

本指針は，完璧な評価システムを構築すること自体が目的ではない。研究開発は，未知を知に転換していく高度な専門性に立脚した知的生産活動であり，その見通しや価値の判断は，専門家の洞察に本来的に依存するものであることに留意しなければならない。このため，評価に関して責任を持つ者は，評価は無謬ではないという謙虚な立場に立

CREST, さきがけ, ACT-I 等
(科学技術振興機構)

社会や時代が抱える喫緊の諸課題等による特筆課題

- ① 科学技術イノベーション創出，課題解決のためのシステムの推進
- ② 挑戦的 (Challenging) な研究，学際・融合領域・領域間連携携研究等の推進
- ③ 次代を担う若手研究者の育成・支援の推進
- ④ 評価の形式化・形骸化、評価負担増大

K-CONNEX及び
白眉プロジェクト
(京都大学)

研究活動におけるKPI, 及び
DP/DR, QTA/TF, HIRAKU-PF
制度等(広島大学)

若手による研究開発の育成・支援の背景や観点

成長の原動力としての、新しい視点と柔軟な発想を生み出す若手研究

👉 社会や時代が抱える背景

- ・ 学術や研究開発を担う人の，量の先細り問題
- ・ 内向き思考，蛸壺化，先入観や閉塞感の打開
- ・ 支援環境の整備（多様性の確保，キャリアパス支援等）

👉 促進・支援するアセスメント型『評価』の観点例

- ・ 成長を引き出す，立ち位置の可視化…研究業績評価
- ・ 成長を後押する，建設的な助言 …研究課題評価
- ・ 研究者を育む環境や制度の構築 …プログラム評価

👉 取組事例の特色

- ・ 京都大学：自発性や自律性の伸長，成長を見守る支援
- ・ 広島大学：定量化による可視化と気づき，DP/DR等
- ・ 科学技術振興機構：多様性に配慮した多面的制度設計

パネル・ディスカッションの論点として

プレイヤーである若手研究者の目線から観た時、

👉 **若手研究者の成長や価値創造に繋がっているのか？**

- ① 制度設計の経緯， 思わぬ効果や効用は何か。
- ② 想定外の問題や新たに発生した課題は何か。
- ③ (他機関で) 適用するにあたっての留意点は何か。

👉 **課題認識の背景**

- ・ 内なる**切磋と琢磨**， 外なる**叱咤と激励**を和合させる， 研究者の葛藤
- ・ 自発性・自律性を育む場を醸成する， 先輩研究者やメンターの育成方法
- ・ 仕組や制度を維持するための無視できない， 書類作成や報告等の間接的な業務増大に対する懸念